

SDGs 未来都市等進捗評価シート

静岡県浜松市

2019年8月

SDGs 未来都市計画名

浜松市SDGs 未来都市計画 ～浜松が「五十年、八十年先の『世界』を富ます」～

1. 全体計画

計画タイトル	浜松市SDGs未来都市計画 ～浜松が「五十年、八十年先の『世界』を富ます」～
2030年のあるべき姿	2015年度から、30年後（一世代先）を描いた総合計画をスタートしており、経済・社会・環境の調和等を基調とした、SDGsの理念にも通ずる社会を描いている。「高める」（農林水産業）、「活かす」（エネルギー）、「認め合う」（多様性）など、バックカスティングで設定した「1ダースの未来」（理想の姿）を目指す。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	経済	社会	環境
	ゴール7 ターゲット7.1,7.2 ゴール8 ターゲット8.2,8.3 ゴール9 ターゲット9.1,9.2   	ゴール4 ターゲット4.1,4.2,4.4 ゴール11 ターゲット11.1,11.2,11.3 ゴール12 ターゲット12.2,12.7,12.8   	ゴール13 ターゲット13.1 ゴール15 ターゲット15.1,15.2,15.4  

優先的なゴール、ターゲットに関するKPI	No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
	1	電力自給率【7.1,7.2】		2013年	6.6 %	2024年	17.6 %
2	市内総生産額【8.2,8.3】		2011年	2兆9,661億円	2024年	3.3兆円以上	2015年度時点で、3兆0,065億円まで進捗した。「浜松バレー」実現に向けたベンチャーを中心とした企業誘致の推進や創業支援、課題となっているEVシフトをはじめとする次世代自動車への対応など、産官学の連携強化のもと地元産業の集積・強化に取り組むとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック等の機会を活かした交流人口と旅行消費額の拡大を図りKPIの達成を目指す。
3	都市計画マスタープランの拠点に居住する人口【9.1,9.2】		2013年	52,358 人	2024年	53,000 人	2018年度実績で、52,675人まで進捗した。平成30年度に策定した立地適正化計画に基づき、拠点を含む誘導区域への居住誘導を図る。
4	自分にはよいところがあると思う子どもの割合【4.1,4.2,4.4】		2013年	小学校80.9% 中学校74.4%	2024年	小学校85.0% 中学校80.0%	2018年度実績で、小学校83.4% 中学校80.3%まで進捗した。子供の個性に応じた支援体制を整備することにより、子供と大人の心の通い合う温かい人間関係を構築し、夢と希望を持って学び、生きる力を身につけていく。
5	都市計画マスタープランの拠点に居住する人口【11.1,11.2,11.3】		2013年	52,358 人	2024年	53,000 人	2018年度実績で、52,675人まで進捗した。平成30年度に策定した立地適正化計画に基づき、拠点を含む誘導区域への居住誘導を図る。
6	市民1人当たりのごみの排出量【12.2,12.7,12.8】		2013年	898 g/人・日	2024年	851 g/人・日	2018年度実績で、879gまで進捗した。市民、事業者に向けて、水切り、分別の徹底や食品ロスの削減を普及啓発をし、ごみ減量・資源化を推進していく。
7	自分の生命と財産は自分で守らなくてはならないと思う人の割合【13.1】		2014年	76.4 %	2024年	80.0 %	2018年度実績で、77.1%まで進捗した。これまでの出前講座、市広報紙などによる啓発に加え、2018年12月にオープンした、防災学習センターを活用し、家具の固定や飲料水の備蓄など、「自助」について市民への更なる啓発を行う。
8	環境に配慮して生活していると思う人の割合【15.1,15.2,15.4】		2014年	55.1 %	2024年	66.6 %	2018年度実績で、47.0%にとどまっている。移動環境教室や環境フェスなどの環境教育事業、河川巡視、浜名湖クリーン作戦、ウエルカメクリーン作戦などの自然環境・景観保全事業等を行い環境に関する啓発や環境保全に関する機会を提供している。

1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題 【浜松市総合計画】 ・SDGsの推進に係る取組を、2020年度の中間見直しに併せて反映を検討 【浜松市戦略計画2019】 ・2019年度から、全事業を体系的に管理する政策・事業シートにおいて、SGDsの17ゴールとの関連性を明確化させ、職員の意識付けを実施 【浜松市“やらまいか”総合戦略】 ・SDGsの推進に係る取組を、2020年度を始期とする第2期総合戦略に反映予定 【第2次浜松市環境基本計画】 ・2015（平成27）年度策定の「第2次浜松市環境基本計画」については、2019年度に中間見直しを行うため、その際にSDGsについても記載 【浜松市森林・林業ビジョン】 ・林業政策の企画・立案にあたっては、本ビジョンの方針に基づき、毎年度目標の設定等、進捗管理を行いながら進めており、FSC森林認証制度に基づく持続可能かつ適切な森林経営管理など、SDGsの推進に係る取組をより重点化 【浜松市エネルギービジョン】 ・SDGsの推進事項等を踏まえ、2019（令和元）年度に浜松市エネルギービジョンを改訂 ■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ ・市長をはじめ、全ての部長等を本部員として組織する浜松市地方創生推進本部を活用し、SDGs推進体制を構築</p>	<p>■全体 ・広報はままつに、SDGsに関する市長コラムなどを掲載 ・市民に対する出前講座によりSDGsについて普及啓発するとともに、市の取組を情報発信 ・青年会議所等の各種団体が主催するSDGsに関するイベントにおいて、市の取組等を情報発信 ■森林関連 ・「浜松地域FSC・CLT利活用推進協議会」では、持続可能性の証明として非常に有効であるFSC森林認証を官民一体となって推進 ・「天竜林材業振興協議会」では、FM認証林の維持管理・面積の拡大により、FSC認証の原則と基準に則り、地域内外に普及啓発活動を推進 ■エネルギー関連 ・国際的な展示会への出展により、本市の取り組みを発信 ・浜松市スマートシティ推進協議会会員企業に対しメルマガなどにより情報発信</p>	<p>・天竜材に係る産業振興に向けたFSC認証の活用については意欲的な取組みと評価する。その実績は台風被害の影響などにより必ずしもその成果を挙げるに至っていないが、FSC認証の有効性を検証し、その成果を他の都市との共有などを通じ更なる深化を目指すべく努めることは重要であると思料する。 ・外国人の子どもの不就学児童生徒数は、都市全体で掲げるKPIとして適切な指標になっているのか検討いただきたい。 ・国際的な連携としては、UCLGの日本唯一の加盟団体としてはその先見性を評価するものの、活動の具体的な内容とその将来の方向性を明らかにするとともに、国内他の都市の参画について努めることを期待する。 ・「SDGs推進プラットフォーム」の活動の内容や果たすべき役割、実績についても明らかにし、進捗評価していくことを期待する。 ・地域電力事業や森林管理を、他の暮らし支援やコミュニティ形成、教育等の政策分野の起動力として活用する包摂的な、具体的展開を期待する。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■全体 ・浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議において、SDGsの取組について報告や意見交換を実施 ・SDGs達成に向けた、企業・団体・個人による幅広い活動の推進のため、浜松市SDGs推進プラットフォームを設立 ・ステークホルダーとの協働をテーマとしたシンポジウムを開催 ■森林関連 ・「浜松地域FSC・CLT利活用推進協議会」において事業推進方針にSDGs未来都市に認定された浜松市と連携することを掲げ、総会時に「SDGsと木材利用」をテーマとした基調講演を開催 ・市内6つの森林組合からなる浜松地域森林組合協議会をはじめ、森林・林業・木材関係の団体・民間企業等に浜松市SDGs推進プラットフォームへの参画を促進 ■エネルギー関連 ・浜松市スマートシティ推進協議会を通じて、会員企業を核として、スマートプロジェクトを推進。また、会員企業間の情報交換や意見交換を実施 ■多文化共生社会関連 （1）域内の連携 ・浜松市多文化共生推進協議会において、国、県の関係諸機関や市内の諸団体の協力・連携により多文化共生のまちづくりを推進するための意見交換を実施 ・浜松市外国人市民共生審議会を開催し、外国人市民が地域生活を営む上での諸問題や共生の推進について調査審議し、市へ提言 （2）自治体間の連携 ・外国人集住都市会議を通じ、外国人市民との共生のための相互連携、情報交換、課題共有、国などへの提言活動を実施 （3）国際的な連携 ・世界最大規模の自治体連合組織であるUCLGへの参画を通じて、海外諸都市との都市間交流及び連携を図り、日本で唯一参加する自治体として情報発信 ・欧州評議会が主導するインター・カルチュラル・シティ（ICC）・ネットワークヘアジアの都市として初めて加盟し、海外諸都市との連携を通じ、互いの知見の共有及び本市の多文化共生施策の情報発信</p>	<p>・多様なステークホルダーとの連携を促進し、「全員参加型社会」を実現 ・林業・木材産業の成長産業化、天竜材の利用拡大などを進め、林業振興を推進 ・エネルギーに不安のない強靱で低炭素な社会「浜松版スマートシティ」を実現し、エネルギーを持続的かつ安定的に確保</p>	

1. 全体計画

自治体SDGsの推進に資する取組の2020年のKPI	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2018年	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
	林業・木材産業の成長産業化		8.2 8.3	森林組合等における年間素材生産量	2017年度 12.6 万㎡	2018年度 11.8 万㎡	2020年 15.1 万㎡	-32%
9.1			製材事業者における製材品販売量 (浜松地域林業成長産業化地域構想参画者)	2016年度 11,000 ㎡	2018年度 11,170 ㎡	2020年 13,880 ㎡	6%	製材ベースにおいては、基準値を若干ではあるが上回ることができた。
9.2			木材流通事業者における製品販売量 (浜松地域林業成長産業化地域構想参画者)	2016年度 4,200 ㎡	2018年度 3,952 ㎡	2020年 5,880 ㎡	-15%	製品ベースにおいては、基準値及び目標値を下回る結果となった。地域構想に掲げた販路拡大に向けた一般消費者向けのイベントや異業種間のマッチングなどソフト事業は功を奏しているが、今後施設整備等のハード事業や雇用確保による生産体制の整備に取り組む必要がある。
天竜材の利用拡大		4.1 4.2	森林・環境教育受講者数	2017年度 681 人	2018年度 694 人	2020年 700 人	68%	「天竜のこれからの森を考える会」と連携し、小中学生を中心に森林・環境教育を計画どおり実施することができた。
		11.1 11.3	天竜材使用木質化件数	2018年度 17 棟	2018年度 5 棟	2020年 20 棟	85%	非住宅建築物における天竜材による木質化の推進を目的とした補助制度を創設したが、制度の周知不足等により十分な活用が図られなかった。
		12.2 12.7 12.8	天竜材使用木造住宅数	2017年度 218 棟	2018年度 181 棟	2020年 250 棟	-116%	全国的な新築住宅着工件数が減少傾向にある中、本件数も伸び悩んだ。
持続可能な森林経営の推進		13.1	F S C 森林認証面積	2017年度 45,131 ha	2018年度 45,270 ha	2020年 46,000 ha	16%	約140ha拡大し、市町村別取得面積全国第 1 位を維持した。
		15.1 15.2 15.4	森林間伐面積	2016年度 2,692 ha	2018年度 2,696 ha	2018~2020年の累計 6,000 ha	0%	間伐、除伐等の森林整備事業を支援し、微増ではあるが面積が拡大した。
分散型エネルギーの導入		7.1 7.2 9.1 9.2	エネルギー (電力) 自給率	2017年度 13.8 %	2018年度 14.9 %	2020年 15.7 %	58%	太陽光発電のけん引により再エネ導入が進展し、2018年度末で14.9%となった。その他、風力発電やバイオマス発電等の事業計画が上がるなど、今後の導入が見込まれる。
スマートコミュニティの創出		9.1 9.2 11.1 11.2	スマートシティに資するプロジェクトの創出数	2017年度 5 件	2018年度 8 件	2020年 10 件	60%	浜松市スマートシティ推進協議会の会員企業を中心に、スマコミのモデル地区4カ所、モデル事業3事業のスマートプロジェクトを推進。この他、スマートタウンに1件が認証。
外国人の子どもの就学状況の実態を継続的に把握し、訪問による就学案内・情報提供、教育相談等、就学に向けた教育支援を行うことにより、不就学の解消を目指す	4.1 4.4	外国人の子どもの不就学児童生徒数	2018年度 3 人	2018年度 2 人	2020年 0 人	33%	関係機関との連携により、就学状況の継続的な把握に努め、訪問による面談やカウンセリングをはじめとしたきめ細かな支援を行っている。就学に課題を抱える外国人の子どもたちは、学校に通うことに対する不安だけでなく、家庭問題、経済的問題、日本語能力、生活習慣の未習得などの課題を抱えており、日本語指導をはじめ、母語指導、日本の生活・文化へ適応支援などが課題となっている。定住化の進展により、多国籍化が進んでおり、日本語教育支援体制の充実が求められている。	